

フランス、スロヴァキア

駐日フランス、駐日スロ
ヴァキア両大使が6月1日、
2日と相次いで中央大学を
訪れて講演を行った。

(学生記者・白瀧ちあみ)

両国駐日 大使が 相次ぎ来校

「EU」「経済」を講演

本校を訪れたのが2度目になるグ
ルドー・モンターニユ駐日フランス
大使の講演は、大使の流暢な日本語
のあいさつで始まり、思わぬ展開に
学生から再三、拍手が起きた。大使
は欧米5か国語のほか、ロシア、ア
ラビア語にも通じるという、並外れ

学生との対話に満足

た語学力の持ち主とが。昨春秋、エ
クス・マルセイユ大学リュイト学長
と本校を訪れた際、「日本語を習得
中」のはずだったのに、今回の見事
な日本語を聞かされ、私はまたまた
驚いてしまった。
テーマは「フランスとヨーロッパ
と日本」。ヨーロッパといえば、今
年1月に導入されたユーロ。まず、
その大きさについて理解を求めたこ
と。さらに強化されるヨーロッパの
拡大による、フランスと日本との関
係について3つのテーマに絞り、わ



フランス
大使

かりやすく話された。
EUが一つになっていく過程を聞
くのも面白かったが、それより同大
使がシラク大統領の側近として、「大
統領個人代理」であったことから、
大使がEU統合に深く関わってきた
ことを強く感じさせた。
その中で、経済・政治面での各国
の意見調整は難しく、一つ一つをク
リアすると、また新しい課題が生ま
れ、それに向かってきたのがヨー
ロッパであるからだ。
講演のなかで、大使は「シャンパ



① 見事な日本語で始まった
仏大使の講演
② お茶をたしなむ仏大使

ンで有名なフランスは」といって、
テーマ以外でもフランスに興味を
持ってほしいと訴え、高村外務大臣
が中大の出身者であることを話を持
ち出すなど、細かい配慮が大使の人
柄を感じさせた。
最後に「今後ヨーロッパの主要な
パートナーとなるのが日本であり、
フランスを日本のヨーロッパへの大
きな入口としたい」と強調された。
講演のあとは大使と学生の対話の時
間。質問に立った学生が上手なフラ
ンス語だったので、大使は「もしか
したら全員、フランス語がわかるの
ではないかと思ってしまう」と
おっしゃった。「EUの統合が、フ

ランス文化である個人主義に与える影響は」などの質問が学生から出され、大使からは「ランスはグループより個人を尊重しているが、これは自由を尊重しているからこそその個人主義である。E.Uレベルでは各国統一した見方がとられるようになって



フランス語で質問する学生

だが、これにより下から上へと、より個人の希望が反映されるようになった。これが地方分権の流れである」といった答えが出されたほか、「コンボ問題」、昨年行われた「フランス年の成果」についてなど、4人の学生から質問があった。

この後、「虚白庵」でお茶会、歓迎食会では留学生たちとの交流会が催された。席上、大使は講演会の印象などを次のように話してくださった。「質問の内容も印象的でした。

中央大学が世界に目を向けていることを実感した。また、お茶会で伝統的な部分も大切にしていると思った。人間は本質を忘れてはいけない。世界に目を開くと同時に、自分自身もよく知っていくことの大切さを感じました。」

ぜひ学生食堂を見たい

スロヴァキア大使

一方、スロヴァキアのミクラーシュ・セドラーク駐日大使の講演テーマは「歴史、国の特徴、そして経済」について話された。講演前、

中大キャンパスを見て回り、私の質問にも応じてくださった。大使になる半年前は、母校のブラチスラヴァ経済大学で、学長や教授をされていたこともあって、「学生食堂を見たこと」もあって、「学生食堂を見たい」と学内見学に意欲的。背が高く、体格のいい大使は、穏やかで優しい顔が魅力的だ。

「日曜日にこの本を読み、写真も見た。特に商学部棟の写真を見ました。驚いたのは建っている場所が恵まれていること。木や森があつて、すくすきれいだ。この大学に居られることは誇らしいことです」と話し

また、1号館にある中大キャンパスの模型を見た大使は「できれば25年ほど前に戻って、ここで勉強したい。それほどいいキャンパスだ」といわれたのがうれしく、このキャンパスで勉強できる自分は恵まれているのだなと思った。

ながら、広いキャンパスをすたすた歩く。

最近、いわれている学生の学力低



ベデ上のスロヴァキア大使

下についてうかがいました。「現在は若い年齢層が大学で学ぶということの必要性が高くなっている。国際化・情報化の中で、質の高い人が求められているからです。近い将来、世界では大学で勉強する人がもっと増えてくるでしょう」との返事が返ってきた。大使は特に少子化に関心を持っておられ、「日本の女性は結婚したくないといっているが、あなたの場合はどうか」といわれ、私は答えに窮した。

大学では経営マネジメントを学んでいたというが、「私の好きなこととは書くこと、講義をすること」という。「きれいで美しい人が好き。あなたたちも好き」と、外交辞令も忘れなかった。

講演会はOHPを何枚も使うもので、マイクなしで話す姿は大学教授そのまま。「経済学の講義」が展開されていき、スロヴァキアの歴史と国のさまざまな状況について、理解を深めることが出来た。「温泉、スキー、リゾート、ミネラルウォーター。景色は美しく、観光に最適」と語るときの大使のうれしそうな顔が印象的だった。